

第 I 部

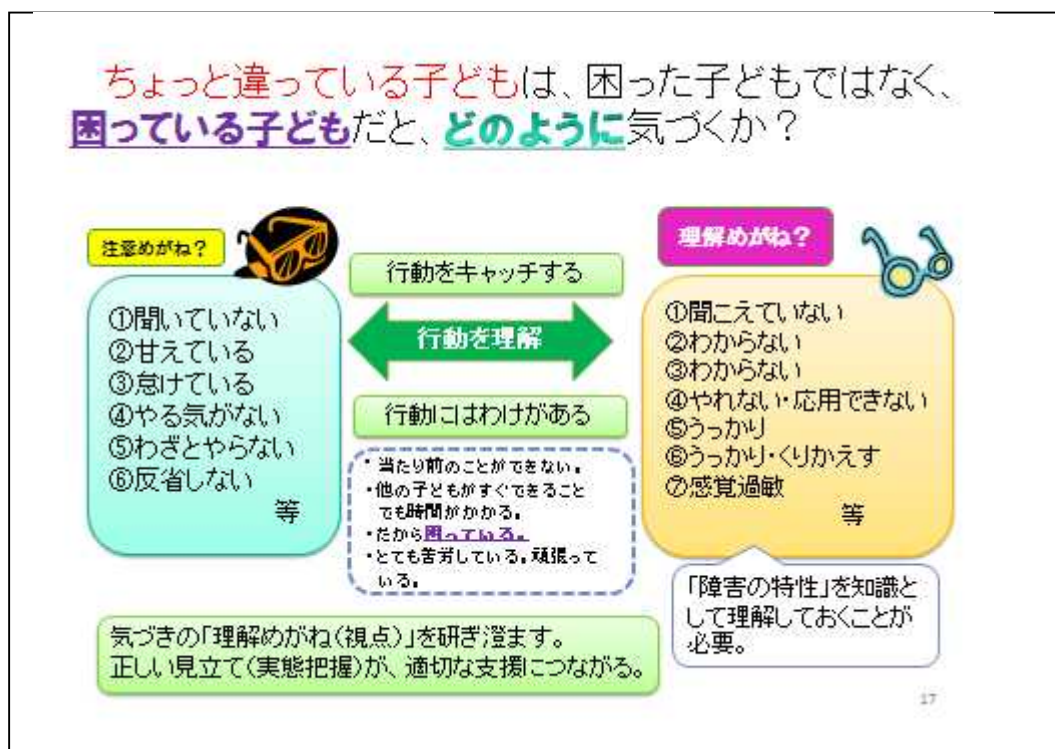
特性に応じた個々への支援実践編

01

1章 発達障害の可能性のある幼児への支援のあり方を理解し、実践しよう。

第1部では、障害の特性に応じた個々への支援について具体的に掲載しました。23のQ（問い）は、幼稚園・保育所でよく見られる子どもの「現象として表れた行動」を、生活場面ごとに整理し作成しました。さらに、行動の背景を推測しながら、どのように手だてを考えていけばよいのか、実践の進め方がわかるように記載しました。

先生の指示通りに活動ができない子どもを、「話を聞いていない子ども」と捉えるのか、「話が聞こえていない子ども」と捉えるのかでは、子ども理解の上で大きな違いが生じます。先生にとって気になる行動をとる子どもは、困った子どもだと一方的に捉えるのではなく、1番困っているのは子ども自身なのではないかと、子どもの困り感に気がついていくことが大切です。これは、子どもの身近にいる先生だからこそできることです。



Q1

問いかけに対して、全く違う答えを言うのは？

困っている子どもを理解しよう

子どもにとっては、急に質問されたと感じて戸惑い、それでも答えようと一生懸命なのかもしれません。あるいは、答えがちぐはぐなことに気づいていないのかもしれません。

子どもの 気持ちに共感

障害の特性からその背景を考え、適切な支援をするために仮説を立てよう。

- 先生の話に注意を向けられず、聞き逃した（注意の統制・維持）。
- 問いかけの意味がわからなかった（言葉の意味理解）。
- 話は聞いていたけれど、自分の話したいことを優先した（行動の制御）。
- 適切な答え方がわからなかった（言葉の表出・語彙）。

「環境整備」として

- 問いかけは、名前を呼んで注意を引いてからにする。
- なるべく正面から話しかけるようにする。
- 比較的静かな所で問いかける。
- 問いかけの言葉を短くする。
- 具体的な言葉で、必要に応じて指差しをしたり、実物を見せたりしながら話す。

「個別の支援」として

- 子どもが話したい気持ちを受け止めた上で、再度問いかける。
- 答えの選択肢を2つか3つ挙げ、子どもに選んでもらう。
- 支援をして適切な答えが言えたら会話がかみ合ったことを伝え（「上手にお話できたね」など）、子どもをほめる。

保護者と一緒に

- なぜちぐはぐな答えをするのか、家庭での様子も大事な情報になります。家庭と園との情報を総合して理由を考え、その理由に合ったかわりをするのが大切です。
- 「環境整備」の工夫は家庭でも取り組みやすいものが多いと思います。



1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

3日以上、同じ状態が続いているよ

Q2

先生や友だちに、出来事や自分の気持ちを上手に話せないのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

原因はこれかな？（背景を推測する）

子どもの
気持ちに共感

先生や保護者、友だちに出来事や気持ちを伝えられないのは、もどかしいものです。いじわるをされたことや体の不調など、伝えられないと子どもの健やかな成長を妨げることもあります。子どもの様子をよく見て、つまずきの理由を知ることが大切です。

出来事や気持ちをうまく伝えられないのは、以下のような理由があるかもしれません。つまずきの理由は1つではなく、いくつかの理由が重なっている場合もあります。

- 出来事を覚えていない。
- 自分の気持ちがわからない。
- 伝えたいことはあるが、話を組み立てられない。
- 出来事や気持ちに合った言葉を知らない。知っているても出てこない。
- 伝えたい気持ちもスキルもあるが、焦りや緊張、興奮からうまく話せない。



まず、考えられる原因をいろいろとあげてみます。次に、Aちゃんの原因は何かを探るために、行動を観察したり、保護者等から聞き取りをしたりして、「実態把握」をします。原因（背景）は、子ども個々によって違います。

「実態把握」をもとにして、個別の教育的ニーズに応じて手だてを考えていくことが大切です。

3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

- 出来事を覚えていない。
子どもが体験した出来事を知っている大人が状況を思い出すヒントを出して、思い出してもらいます。絵や写真、しおりなどの目で見てわかる手がかりも有効です。
- 自分の気持ちが分からない。
感情の言葉や表情絵カードから選んでもらいます。気持ちを伝える場面以外でも、子どもが感じていそうな感情の言葉を代弁することも大切です（「きれいになって気持ちいいね」など）。
- 伝えたいことはあるが、話を組み立てられない。
「いつ」「どこで」「誰が」など、話の枠組みを1つ1つ聞いていき、それらをつなげて、最後にもう一度子ども自身に話をしてもらうのもよいかもしれません。
- 出来事や気持ちに合った言葉を知らない。知っていても出てこない。
活動や絵本、劇などを通して、新しい言葉を知ってもらいます。出来事や気持ちと言葉を1対1で対応させてシンプルに提示するとわかりやすいようです。出てこないときは、言葉の1文字目を言うなどして、ヒントを出します。
- 伝えたい気持ちもスキルもあるが、焦りや緊張、興奮からうまく話せない。
「ゆっくりでいいよ」と言って笑顔で待つなど、ゆったりとした気持ちで接します。興奮している場合は少し待ち、落ち着いてから再度聞くようにします。

4 振り返り・評価をする

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

支援は、有効だったかな？

★ 家族もよろこんでいるよ。

記録を読み返し、振り返りをしよう。

上手に話せるようになるには、とても長い時間がかかります。行事などのときに同じ質問をして、答え方が上手になったかどうか評価をしてもよいかもしれません。

日常の変化は分かりにくいので、小さな成長でも先生同士で報告し合い、手立ての有効性について評価をするようにします。小さな成長を共有することは、保育や教育のやりがいにもつながります。



仮説の修正

まとめ

子どもが表現したいことをサポートするポイントは、先生が日頃から子どもの活動や表情を注意深く見ておくことです。忙しい業務に追われ、先生自身に余裕がなくなると子どもの話をゆったりと聞くことも難しくなります。そのためには、行政（教育委員会や保育課など）や管理職（園長）による業務のマネジメントも重要です。

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

3日以上、同じ状態が続いているよ

Q3

クレヨン等、持ち物をすぐになくしてしまうのは？

2 仮説を立てる

子どもの
気持ちに共感

困っているんじゃないかな？

原因はこれかな？（背景を推測する）

こんな原因が考えられます。

- 注意が色々なことに向きやすい。
- 記憶に課題がある（容量が少ない・忘れてしまう）
- 多くのものから、一つだけ見つけ出すのが難しい。
- 持ち物が整理されていない。
- 自分の持ち物と他児の持ち物と区別がついていない。
（自分のものという意識がない）。



まず、考えられる原因をいろいろとあげてみます。

次に、Aちゃんの原因は何かを探るために、行動を観察したり、保護者等から聞き取りをしたりして、「実態把握」をします。

原因（背景）は、子ども個々によって違います。

「実態把握」をもとにして、個別の教育的ニーズに応じて手だてを考えていくことが大切です。

3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

○片付けてから遊ぶなどのルールを決める。

○情報を絵や写真など視覚的にわかりやすい方法で提示する。例えば、クレヨンの絵や写真を貼った箱などを用意する。

○自分のマークや印を作り、持ち物にそれを貼る。

○作業をする時は必要なものだけを机の上に置く。



4 振り返り・評価をする

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

★ 家族もよろこんでいるよ。

支援は、有効だったかな？

記録を読み返し、振り返りをしよう。

○保護者に工夫（手だて）を伝え、改善点を話し合う。

○家庭での様子を聞いたり、家庭での工夫を聞いたりして参考にする。



仮説の修正

まとめ

持ち物をすぐになくしてしまう行動は、本人の性格ではなく、障害の特性かもしれません。背景にどんなことが予想されるのか、また、それに対しての具体的な手だては、何があるのかを、園全体で把握し、また家庭とも連携していくことが望ましいと考えられます。

Q 4

片付けの時間がきてもなかなかやめられないのは？

<困っている子どもを理解しよう>

今の活動がとても楽しくて片付けに
気持ちが向かない。

子どもの
気持ちに共感

**障害の特性からその背景を考え、
適切な支援をするために仮説を立てよう。**

- 一つの活動に集中しやすい。
- 次の活動への見通しがもてない。
- 気持ちの切り替えが苦手。



「環境整備」として

- スケジュールを示し次の活動への見通しを持たせる。
- 片付いた状態を視覚化して知らせる(写真などを、使って)。
- 時計の針で終了を知らせる。

「個別の支援」として

- 一日のスケジュールに片付けを組み込む。
- 片付けの時間を予告する。
- 片付けることができたなら、すぐに褒める。
- 片付けができたなら、シール等をあげ、それをポイントとして利用する。

保護者と一緒に

- 家庭でも同じような片付けの方法をしてもらう。
- できた所を多く伝え、保護者からも褒めてもらう。
- 具体的な方法を一緒に考える。

Q 5

靴下や上履きをすぐに脱ぎたがるのは？

困っている子どもを理解しよう

「きつい締め付けは痛い」「大きさが合わず緩い靴下は、こすれてくすぐったい」等
気持ちが悪いと感じているのかも知れません。

子どもの 気持ちに共感

障害の特性からその背景を考え、適切な支援をするために仮説を立てよう。

締め付けられたりゆるゆるしていたり、直接肌に触れている感覚を、過敏に受け止めているのかもしれません。(感覚過敏・鈍感)

「環境整備」として

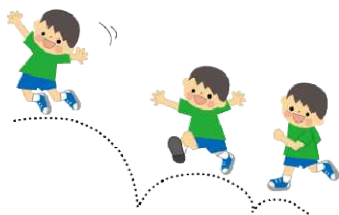
- 気温や室温の変化に敏感な子どももいます。室温調節に注意しましょう。
- 汗によるべたつきも苦手を感じる子どももいます。湿度にも注意しましょう。

「個別の支援」として

- 触れる感覚に意識を向ける練習をしていきましょう。
- 1. 身体の苦手な部分を乾布摩擦して布でこすりましょう。
- 2. 過敏なところは、そっと触れるよりもぎゅっと触りましょう。
- 3. 時間や場面を決めて、少しずつ履き、履けたら褒め、その時間を伸ばしていきましょう。
- 4. 遊びの中で様々な感覚を感じる機会があるとよいでしょう。
(卵パック、どろんこ、濡れタオル等 様々な物を踏みつけて遊ぶのもよい方法です)

保護者と一緒に

- 靴や靴下は子どもに合うものを選びましょう。
 - 好きな形や柄等、子どもと一緒に選んでみましょう。
 - 履かなくてもよい場所等であれば、無理強いをして履かせなくてもよいでしょう。
 - 安全性を確保するために、園では上履きを履かせたい旨を伝え理解していただきましょう。
- 例)
- ・フィットしたものが好き
 - ・靴下は長い(短い)物が好き
 - ・足首に触らないのが好き
 - ・この絵柄が好き
 - ・上履の形は？
運動靴？
シューズタイプ？



Q 6

偏食が強く、ご飯以外あまり食べないのは？

困っている子どもを理解しよう

他の子どもにはおいしい食べ物でも、変な臭いがしたり、口の中に入れた時にゴムを噛んでいるような感じがしたりして、おいしくないと感じているのかもしれませんが。また、甘いものを酸っぱく感じる子どももいます。

子どもの
気持ちに共感

障害の特性からその背景を考え、適切な支援をするために仮説を立てよう。

白いご飯は抵抗がないけれど、ご飯以外の味や、臭いのあるものを口に近づけたり、口に入れたりした時に、臭いや歯触り、口の中で触れる独特な感じの、味覚や嗅覚などの感覚過敏があるのかもしれませんが。また、食べず嫌いだったり、食べ物として認識していなかったりすることもあります。

「環境整備」として

- 苦手な食べ物は、お皿の上に少しずつ取り分けるようにしましょう。
 - 日頃、仲の良い友達と席を近くにするなどして、楽しく食べられる工夫をしましょう。
 - 日中の活動スペースと分けし、食事の際の机の配置を工夫するなどしましょう。
 - 子どもに合った食具を選びましょう。
- 例)
- ・サイズ
 - ・色
 - ・デザイン
 - ・フィット感
- 等

「個別の支援」として

- 初めての食べ物は警戒して食べないことがあります。
- 友達が食べている様子を何気なく見せましょう。
- 好きな食べ物と苦手な食べ物と交互に食べさせるなどの工夫をしましょう。
- 苦手な食べ物でも一口ずつチャレンジしていき、食べることができたらほめましょう。
- 給食当番や〇〇係など、日頃からお手伝いをしてもらうことにより、抵抗感や警戒心をなくしていきましょう。
- 1つ1つ「〇〇だよ」と食べて見せ、絵カードや写真等の視覚提示により食べ物が認識できるようにしましょう。
- 無理強いはいしません。

保護者と一緒に

- 家庭で食べられる物、食べられない物、形態などについての情報の共有を図りましょう。
- 例)
- ・同じ食材でも、家庭で工夫して食べられている物などを聞きます。



1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

Q 7

3日以上、同じ状態が続いているよ

他の子どもと一緒に座って食事をしないのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

子どもの
気持ちに共感

原因はこれかな？（背景を推測する）

- ・うるさくて、ここで食べるのはいやだな。
- ・お腹がすいていないので、食べたくないよ。
- ・ぼくに食べられるものがないからいいや。
- ・いろいろなことが気になるなあ。
- ・食べている最中で、椅子からずり落ちちゃうよ

※ 家庭とは違う雰囲気の中で食事をすることに抵抗があるのかもしれない。



<なぜそのようになるのでしょうか>

○多動の傾向がある

発達障害の特性の一つである多動の傾向があり、一定時間じっとしていることができない。故意に立ち歩いてしまうわけではない。

○慣れない場所での食事に抵抗がある

こだわりのある子や環境の変化に弱い子どもの場合、家庭以外の場所で食事をすることなじめないことがある。

○体力不足や感覚の不具合のために姿勢がくずれる。座ってられなくなる

感覚過敏や鈍麻があるために、姿勢のコントロールが難しかったり、筋力や体力不足等

が原因で姿勢保持ができなかったりすることがある。だらけたり、なまけたりしているために姿勢がくずれるのではない。

○空腹感がなく、食事に関心が向かない

間食の量が多かったり、もともと食が細かったりして、食事の時間にお腹がすかない。

○活動の切り替えがスムーズにいかず、食事に関心が向かない

前の時間にやっていた遊びのことが気になり、食事に関心が向かないことがある。

3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

食事をしたがらない子どもに最も必要なのは、「食事が楽しい」と思えるようにすることです。

その子どもが楽しく食事をしている姿をイメージし、手だてを考えてみましょう。

<環境を整える>

- 刺激の少ない環境をつくる。別の部屋が用意できれば、大人が付き添って慣れるまでそこで食べる。ただし、期間の見通しを持つ必要がある。
- 席を決め、立ち上がりにくい椅子にする。足が床に届くように高さ等も調整する。
- タイマー等を使い、「始め」と「終わり」を知らせる。
- エプロンを外すまでは、座っている等、ルールをつくる。
- 間食をしない生活をつくる。おやつの時間・量の調整をする。

<対応に留意する>

- 叱ったり、厳しく注意したりしない。
- スモールステップでほめていく。3分座っていられなかった子どもが、3分過ぎても立ち歩くことがなくなったらその時にほめる。大人にとっては小さなことでも、子どもにとっては、大きなこと。ほめられることで、食事の時間が楽しくなる。

4 振り返り・評価をする

笑顔がたくさん、見られるようになったかな？

★ 家族もよろこんでいるよ。

支援は、有効だったかな？

記録を読み返し、振り返りをしよう。

みんなとは違う別の部屋で、先生と一緒に食事をする期間が2週間以上続き、そろそろ友達と同じテーブルで食事ができるかなと思ったので、そのことを子どもに話しました。すると、とても不安そうにしたので、ステップをふむことにしました。食べている部屋から、友達の声が聞こえたり、姿が見えたりできるように部室に移動しました。

2か月かかってみんなと一緒に食べられるようになりました。慣れない場所での食事に抵抗があったようです。



仮説の修正

まとめ

食べる機能は段階的に発達していくと言われていています。機能が未熟なのに、高度な技能を要求し、楽しいはずの食事が、苦しくてイヤなものになってしまってははいけません。

食事をしたがらない子どもに、最も必要なのは、「食事が楽しい」と思えるようにすることです。気になる行動を無理にやめさせようとするのではなく、スモールステップで、手だてを工夫しながら、長期的に対応していくことがポイントです。

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

なかなか出来るようにならないよ

Q 8

スプーン・フォーク・箸を使って食べることができないのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

子どもの
気持ちに共感

原因はこれかな？（背景を推測する）

○スプーン・フォーク・箸の持ち方は簡単に習得できるものではありません。

○正しい持ち方を習得するまでには、根気よく子どもの実態に応じた支援の仕方が必要です。

どうして
うまく持てない
のかな



☆ここでは箸の持ち方について考えてみましょう

◎支援者が手を添え
指の形を教える

- ① 一本持たせる
- ② もう一本を差し込む
二本目は
上からでも下からでも



一日目、一口つかめたらほめる
二日目には、一口、二口と増す
（指先の筋力をつけ、箸先の力加減が身に付くまでゆっくりと）

3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

子どもがやる気を持って取り組むためには、

☆補助具の活用も考えてみます

- ・ 輪ゴムを使って
- ・ 補助箸の使用も
(箸の先端がギザギザの入ったものはつかみやすいよ)

☆環境を考えてみます

- ・ 食べやすい姿勢がとれているかな
椅子からはみ出していないか
机と椅子の間は離れすぎていないか
- ・ 食べることに集中できる座席かな
- ・ 食べる楽しさが感じられる教室かな

スプーン・フォーク・の場合

- スプーン・フォークの感触は・・・
金属のものからシリコンや樹脂コーティングのものに変えてみる
- 食べ物の感覚はわかるかな
一口の量を加減する
- スプーン・フォークの形は・・・
持ちやすい形のものに変えてみる
自助皿（器内が垂直ですくいやすい、
底に滑り止等）の使用も考えてみる

手先の筋力を鍛える

- 指先で物をつかむ
・ ペグ挿し・型はめ・ビー玉つかみ
- 指先に力を入れる
・ ひも通し・洗濯ばさみで物をはさむ

4 振り返り・評価をする

★ 家族もよろこんでいるよ。

笑顔がたくさん、見られるようになったかな♡

支援は、有効だったかな？

記録を読み返し、振り返りをしよう。

箸の正しい持ち方がわかったけど、すぐに正しく持てるわけでもないよね。指先の筋力を鍛えることを考えたいな。物をつまむ練習をゲーム化すると楽しく取り組めるのではないかな。手元をよく見られない、力加減がつかみにくい子どもには、子どもの気持ちに寄り添って楽しく取り組めるプログラムを立てるといいよね。



仮説の修正

まとめ

指導はゆっくり丁寧に、スモールステップを心がけましょう。指導が熱心なばかりに、負担が重くなってしまい、予想していたほどの成果が現れないこともあります。園や家庭での食事の様子を伝え合い、実態を共有することにより、さらに効果的な手だてが生まれます。また、上手くできなくても本人のがんばる姿を認め、小さな進歩でもできるようになったことをほめて育ててあげましょう。